

公民科（公共） 学習指導案

令和5年6月16日金曜日 5時限

2年2H 生徒数24名

場所 2年2H 教室

指導者

授業者

学習指導要領

(3) 公共的な空間における基本的原理

ア 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解すること。

1. 単元名 第1部 「公共」のとびら
第3章 公共的な空間における基本原理-私たちの民主的な社会
第1節 公共的な空間における協働とは

2. 教材名 「公共」(東京書籍)
「テーマ別資料 公共」(東京法令)

単元について

3. 教材観

本章では、人々が社会の中で共存していくための基本的原理について学ぶ。各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るために必要であること、及び人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本原理を理解し、表現できるようにする。第一節「公共的な空間における協働とは」では、協働がどのように成り立つのかという問いのもと協働の利益が失われる理由や、利害の調整を行う市場や、国家がなぜ存在するのかという基礎的な知識を身に付けることを狙いとしている。

また、内容の全般にわたって、この項目では、日本国憲法の基礎にあたる考え方に着目し、なぜ憲法が国の最高法規であるとされるのか、といった問いを通して、公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則との関わりを考えさせたりする。

2. 生徒観

真剣に前を向いて授業を受けている生徒が多く、教員が前で話している間の私語も非常に

少ない。自発的な発言は少ないものの、教員側から問いかけを行えばしっかり考えて自らの考えを述べることができるため、授業内では積極的に発問を行って思考力を育てる予定としている。しかしながら、時間割の関係から満腹により集中が切れかける生徒もいる。そのため、授業では聞く・書くだけでなく、実際に自分たちで例を考えたり、もし自分がその立場であったらどうするか、それはなぜかと発言したりと常に自らの頭で考える主体的な授業になるよう指導を行っていく。加えて、提示された環境問題等の例と、学習内容を結び付けることが難しいように感じる。適宜、事例と学習内容の結びつきを明言する必要があると考える。また、観察をしていると板書が間に合わず前の席の子に見せてもらっている生徒もいる。よって、ワークシート形式とし、かつ語句の穴埋めを長く残る黒板に板書することで授業の遅れを減らす目的を持つ。パワーポイントによる生徒からの注目の集めやすさと、板書の長く残せる周知性の二つの学習形態を組み合わせた授業を行う。

3. 指導観

本授業では、協働の利益が社会や人々にどのような影響やインセンティブを与えているかということ、身近な事例や学習動画を利用してできる限り生徒が興味・関心をもって取り組める工夫をする。

また、近年はインターネットの普及により、意識しないうちに市場に触れていることが多い。そのため、市場とは何なのか、何を行う場所なのかを明らかにし、ペアやグループで例を出し合うことによって日常生活の中で市場を意識してもらいたいと考えている。

また、前回の授業では大半の生徒が功利主義、義務論に関わる共有地の悲劇を自らで考える活動が設けられている。その授業の振り返りも含め、共有地の悲劇も社会の協働につながるものだというところを、囚人のジレンマ等のゲーム理論や、立憲主義の存在理由と共に触れていく。

4. 単元目標

・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。

【知識・技能】

・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。

【思考・判断・表現】

・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に迫及している。

【主体的に学習に取り組む態度】

・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。

【資料活用の技能】

5. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・条件	主体的に学習に取り組む態度	資料活用の技能
・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追及している。	・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。

本時の指導

6. 本時の目標

- ・協働がどのように成り立っているのかを理解する。
- ・その知識をもとに、どのようにすれば社会の協働が成り立つかを、自分たちで考えられる。

7. 単元の指導計画

(全4時間 教科書参考 後で聞く)

単元名	時間	学習内容	評価基準
第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	4	・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。	・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。(主体的に学習に取り組む態度)
1. 公共的な空間における協働とは(本時)	1	・社会における利害の仕組みとしての市場の働きと国家の役割、およびそれぞれの課題について理解する。	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。(知識・技能)
2. 民主主義とは	1	・社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する。	・政治における意思決定の方法としての民主主義の意義と課題、直接民主制と間接民主制について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。(知識・技能)

3. 立憲主義とは	1	・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景も踏まえながら理解する。	・基本的人権の尊重と権力の濫用を排除する視点から、法の支配や立憲主義、権力の分立の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。(思考・判断・表現)
4. 人権保障の定義と展開	1	・公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。	・人間の尊厳と平等、人権保障の歴史的発展や現代における人権の広がりについて、主体的に追究している。(主体的に学習に取り組む態度)

8. 本時の展開

学習過程

	学習内容・活動	生徒の活動	留意点
導入 7分	<p>・導入として、まず意識を向けてもらうために、オーストラリアのエアーズロックの写真を見せる。エアーズロックについて、以前は自由に観光ができていたが、観光客のマナーの悪さによって立ち入りを禁止されていることを伝える。</p> <p>Q. 上記のような例はほかにどんなものがあるだろうか。</p> <p>社会的ジレンマの話をし、なぜこのように人々は自分勝手に活動してしまうのかと問う</p>	<p>実際に考えてみる。教科書に載っているものでもよい。</p> <p>例 渋滞、地球温暖化、選挙、駐輪場、ごみのポイ捨て</p>	<p>生徒の意識を画面にしっかりと向けさせようとして、導入であるエアーズロックの話始める。</p> <p>・幾人かの生徒を指名する際、考えが出てこず詰まったときは教員もヒントを出して答えられるよう工夫する。</p> <p>ジレンマの語源と意味を加えることで、理解を深める。</p>
展開 36分	<p>本時の目標：・協働がどのように成り立っているのか理解する</p> <p>・知識をもとに、どうすれば社会の協働が成り立つかを考える。</p> <p>①協働の利益 先ほどの話を絡めて社会的協働について説明する。</p> <p>・前回、前々回にやった共有地問題も絡めて説明する。</p> <p>・違う目的を持つ人間同士の協働は簡単ではない。難しい、ということを強調する。</p> <p>・囚人のジレンマの話 →協働が難しいことを強調したうえで、その難しい理由を目で見て理解させることを目的とする。</p> <p>・生徒に手を挙げさせて参加型にする。</p> <p>・お互いに自分の利益を追求するあまり、相手を裏切るインセンティブが働くことで協働が難しいことを理解する。</p> <p>②市場による調整 ・市場について説明を行う。Market である</p>	<p>一通り説明を行ったあと、手を挙げてもらって自分ならどうするかを考える。</p> <p>なぜその選択をしたのかまで理由をつけて答えをもらう</p>	<p>なぜ協働が難しいのかという題を主軸に、最終的にどうすれば協働の利益をうまく行えるのかに帰結するように気を付ける。</p> <p>・インセンティブがわかっていなさそうな場合、インセンティブについても補足説明を入れる。例「ストックオプション」</p> <p>・逐一生徒の表情や反応をうかがい、理解が追い付いていないようなら補足を入れることを徹底する。</p> <p>・表の見方がわからない子がいるかもしれないので、一度表の見方を説明する。</p>

	<p>しじょうといちばの違いを補足で伝える。</p> <p>→身近にあるネット市場の例を挙げ、フリマアプリの例を用いて市場の取引の仕組みを示し、市場では効率的な取引が行えるので、利害の調整が可能であると伝える。</p> <p>→公平性と効率性はトレードオフの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場では貧富の差による格差が激しい場合、裕福な人は効率性を十分に受けられるが、貧しい人は効率性を得られず、公平性が損なわれてしまうことを伝える。 <p>③国家の役割について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家による利害調整 <p>→国家は、政治と法律によって利害対立を調整することが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 利害対立とは機会が平等じゃない（格差がある）からこそ起こり、国家はその差をなくすための調整を行うことを説明する。（次の税と公共財につなげていく。） <p>→社会契約説</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会契約説の概要を伝える。加えて、社会契約説も、それぞれの自然権に基づき合いが起こることによって利害対立が起きること。ロックなら「財産を巡る争いを想定して各人の所有権を保全するため」であるため、これはすなわち利害調整となることを説明し、39ページのゼミナールへの足掛かりとする。 立憲主義と民主主義の説明。 <p>→立憲主義とは、憲法に基づいて政治が行われることを話し、例題として安全保障条約を出す。</p> <p>→民主主義に関連する動画視聴してもらい、説明を入れる。</p> <p>→税と公共財</p> <ul style="list-style-type: none"> 税を通して、富の再分配を行い、利害の調整（貧富の差を埋める目的）を行う。さらに、公共財の定義を説明し、機会を均等にするために存在することを、例を出しながら説明する。 <p>Q、身近な公共財には何があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代国家の問題点について <p>→技術発展やグローバル化の影響で協働が複雑化</p> <p>→所得格差、世代間利害対立の調整が問題</p>	<p>ネット市場の例を考える。</p> <p>動画を視聴し、民主主義について理解する。</p> <p>公共財とはなにか、例をもとにほかにも考えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近なネット市場は何があるだろう、と問う。 ピンとこない生徒が多い時は、その会社のキャッチフレーズを口ずさんだりして意識させる。 利害の調整は次の国家の部分でも重要になってくるところなので、市場が行える調整と、行いきれない調整があることを留意させる。 トレードオフの話は教科書欄外の説明を利用する 利害対立という語句の意味をもう一度説明して理解させる。 社会契約説の説明を時代背景と共に少し理解できる程度で説明する。 説明ばかりで飽きが来ないように、定期的に質問を行い生徒の頭で考えさせる。 公共への興味を引くために、朝鮮民主主義人民共和国の話を生徒に持ち掛け、調べてみて、と促す。 公共財の概念がわからないときは実際の例を出し、安芸高校も公共財であることも示す。 格差が生まれると利害対立が起こり、協働の利益がなくなることを再び強調し、現代国家の問題を認識させる。
<p>まとめ 6分</p>	<p>Q、教科書欄外のシルバーデモクラシーなぜ高齢者の意思が強く反映されることが問題になるのだろうか、ではどうすればシルバーデモクラシーは解消されるのだろうか。</p>	<p>シルバーデモクラシーの何が問題なのか、どうすれば世代間の協働の利益が成立するか考える。</p>	<p>机間指導を行い、しっかり会話、話し合えてきているかを確認する</p> <p>シルバーデモクラシーを用いて、学んできたことを踏まえてどうすれば世代間の協働の利益が成立するかを考えさせる。</p>

9、板書計画

1 公共的な空間における協働とは

板書

(穴埋めの用語)

スクリーン

公共的な空間における協働とは

6月16日 公民ワークシート

氏名 _____

本時の目標：協働がどのように成り立っているのか理解する

① 協働の利益

(1) 社会的協働

- ・人間は一人では達成できない利益を得るために、(1 _____) を行う。
- 異なる利益を求める他人同士の(1 _____) は簡単ではない…

(2) 2 _____

- 自分の利益を優先する個人には、相手を裏切る(3 _____) が働く。
- そのため、互いに足を引っ張り合い、(4 _____) を失うことが起こりやすい。

Q. 考えてみよう！

自分がもし囚人の立場なら、黙秘するか、それとも自白するか。どちらにするのか理由も含めて考えてみよう。

自白 ・ 黙秘

なぜ？

→協働を実現するためには、利害対立の調整が必要である。

② 市場による調整

(1) 市場による利害調整

- ・(5 _____) …人々の所有する資源や資産に価値がつけられ、それぞれが自発的に交換すること。簡単に言うとお金やモノの取引が行われる場所のこと！
- ネット市場の例…

(2) 市場の(6 _____) と社会全体の(7 _____)

- ・市場は常にすべてが効率的に機能しているわけではなく、非効率性も発生する。
- ・たとえ完全に機能したとして、全員に平等な結果がもたらされるとは限らない。
- ・市場の(6 _____) と社会全体の(7 _____) は、(8 _____) の関係にあるといえる。

③ 国家の役割

(1) 国家による利害調整

→・(9) … (10) による強制力で市場の利害対立を調整する。

- ・(11) …17世紀～18世紀の市民革命期にかけて誕生した、従来の政治体制に代わる新たな政治理念のこと。国家に自然権（人権）を引き渡し、強制力を受け入れて利害対立の調整を行うという点に、国家としての正当性を見出した。

(2) 立憲主義と民主主義

→・近代以降の国家では、利害調整は (12) に基づくルールのもと、国民の意思決定 (13) によって行われている。

- ・国家は、税を通して所得の再分配を行い公平かつ効率的な利益の配分を目指すとともに、市場では十分提供されない (14) を提供する。

Q. 公共財ってなんだ？例えばどんなものがあるか考えてみよう！

()

(3) 現代国家の問題

→・急激な技術発展やグローバル化により、社会的協働が複雑になった！

…所得の格差や高齢化に伴う世代間の利害対立の調整が必要となっている。

Q. ワーク

教科書P37 シルバーデモクラシーはなぜ問題になっているのか、どうか各自で考えてみよう！